

歴代大学院研究科長

大学院を 振り返って



第二代 研究科長
井上 誠

愛知学院大学は、学部と大学院の教育を通じた高度な薬剤師教育と薬学研究者養成を目指して、薬学部医療薬学科(4年制)の卒業生の受け皿として、平成21年に大学院薬科学研究科薬科学専攻(修士課程)を開設しました。平成21年には18名(平成22年は4名)の入学者があり、薬学部の研究室は活気に溢れました。大学院生はそれぞれの研究室で最先端の研究に取り組み、確かな知識と技能を身に付け企業、公務員、病院、薬局へと就職していききました。ただ残念なことに、6年制薬学部へ完全移行した愛知学院大学薬学部には現在受験資格者はおらず、他大学4年制薬学部からの入学者もない状態が続き、薬科学研究科の役割は終了との判断の下、平成27年度から学生募集は停止することになりました。

一方、平成24年に薬学新教育制度下、新時代の薬学・医療薬学を先導する人材を育成するために大学院薬科学研究科博士課程医療薬学専攻(4年制課程)を開設しました。高齢化社会が進み医療を取り巻く情勢は緊迫し、生活習慣・環境の変化により疾病は多様化、複雑化しています。このような状況の中で、人々が健康で幸せな暮らしを送るためには、より高度な医療の提供や革新的な医薬品の開発が切望されています。それらの社会的要請に応えるために、医療分野においてチーム医療の中核となる高度専門性を有した薬剤師、最先端の医療薬学・創薬研究を推進する研究者、6年制薬学教育制度下での学生の教育にあたる教員など、高度専門的な医療薬学・基礎薬学の研究・教育を推進する人材を養成する必要があります。その目的のために設置された博士課程へ、これまでに3名の大学院生(うち社会人2名)を迎えています。まだ定員を充足するに至っていませんが、学生の中には大学院の重要性が少しずつ浸透しつつあるのではないかと希望的な印象を持っています。

最後に、卒業生並びに学生の皆さんには中長期的な展望を持っていただき、将来設計の中に大学院博士課程を入れて頂けると大変うれしく思います。